

# 名誉員推薦

(写真：敬称略)



三木 哲也

## 推薦の辞

三木哲也君は、1965年電気通信大学電気通信学部電波工学科を卒業、1970年東北大学大学院工学研究科博士課程を修了し、同年、日本電信電話公社（現日本電信電話株式会社、NTT）に入社、研究所において主に伝送システムの研究開発に従事されました。1982年から同社横須賀電気通信研究所伝送方式研究室長、1989年から同社通信網総合研究所通信網推進研究部長、1992年からは同社伝送システム研究所長を務められました。1995年には電気通信大学電気通信学部教授に就任され、2008年から同大学理事を務められ、2012年からは同大学特任教授として現在に至っておられます。

日本電信電話公社入社後、いち早く光通信の将来性に着目し、光ファイバ伝送のれい明期の1974年に光伝送システムの研究に着手しました。F-32M、F-100Mシステムの研究開発において中心的な役割を果たし、1981年には日本初の光通信としてこれらのシステムの商用導入を成功させました。伝送装置の開発のみならず、保守用の光測定器、オペレーションシステム等、光通信全般にわたって基本技術を完成させ、その後の光通信技術の発展の基盤を築きました。

同君の特筆すべき功績の一つは、光波長分割多重技術の将来性を世界に先駆けて示したことです。1977年にこの技術を提唱し、WDM（Wavelength Division Multiplexing）と命名し、世界初の3波WDM伝送の実験を成功させその有効性を示しました。

更に、ブロードバンドネットワーク実現の鍵であった各家庭への光通信FTTH（Fiber To The Home）が普及していますが、同君は1986年にPDS（Passive Double Star）技術を提案し、1990年代の実用化を目指してFTTH研究開発プロジェクトを組織してその基盤技術を実現しました。PDSは現在ではPON（Passive Optical Network）と呼称され標準化されていますが、同君はFTTHの国際標準化と早期実用化を目指して、現在

FSAN（Full Service Access Network）と呼ばれている標準化フォーラム活動を主要国に呼びかけて1990年から開始しました。この活動は、PON技術によるFTTHがITU-T及びIEEEにおいて国際標準化され、2000年代以後、広く世界に普及していく大きな推進力となりました。

このように、同君は光通信技術に関して、1980年代以後の研究の方向付けと実用化の両面において大きな貢献を成し遂げました。

1995年からは電気通信大学教授としてフォトリックネットワーク等の研究を精力的に行いつつ、後進の育成に尽力しています。2006年からは（社）日本技術者教育認定機構（JABEE）認定・審査調整委員会委員長として、全国の理工系高等教育プログラムの認定活動による教育の質向上を推進しており、教育面での貢献も非常に顕著です。

これらの功績によって、1978年に本会業績賞、2012年に本会功績賞、2000年に本会フェロー及びIEEEフェローの称号を授与されています。

本会役員としての貢献も大きく、通信ソサイエティ会長及び同編集長、東京支部長、監事、副会長を歴任されています。また、2003年度から本会アクレディテーション委員会副委員長、2009年度から理事・規格調査会委員長を務められていて、その貢献は顕著です。また、IEEEにおいてもCommunications Societyのアジア太平洋委員会委員長、副会長などの要職を歴任されており、グローバルな学会活動にも多大な貢献をされています。

更に、2005～2008年独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター特任フェロー、2007年から総務省情報通信審議会専門委員、2008年独立行政法人メディア教育開発センター理事、2010年からJABEE理事、2011年から（財）日本無線協会理事長を務められるなど、公的活動においても尽力されてきました。

このように、学会活動を含めた電子情報通信分野の発展及び国際化への功績は極めて顕著であり、ここに本会の名誉員として推薦致します。



安田 浩

## 推薦の辞

安田 浩君は、1972年に東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了され、同年日本電信電話公社（現日本電信電話株式会社、NTT）に入社、画像情報通信の研究に従事されました。1987年同社ヒューマンインターフェース研究所画像メディア研究部長、1995年情報通信研究所長を経て、1997年4月に東京大学先端科学技術研究センター教授に着任されました。1998年同大学国際・産学協同研究センター教授、2003～2005年に同センター長を務められ、2007年4月に東京電機大学未来科学部情報メディア学科教授に着任されました。その後、同大学未来科学部長に就任され、現在に至っております。

同君は画像圧縮に取り組み、適応予測符号化、フレーム間符号化による画像符号化技術について先導的な研究を行われました。また、同技術の応用として、ISDNの2B+Dチャネルを用いたテレビ電話・会議システムの研究開発を主導、デジタル画像通信の実用化に貢献されました。更にISOにおいて、自ら開発した画像符号化技術を基にした国際標準化に取り組み、議長を務めるISO/IEC JTC 1/SC 29から、今日世界中で使われているJPEGやMPEG等、デジタルメディア普及の礎となる国際標準を生み出されました。これらの標準は情報通信技術による産業の振興に大きく貢献しています。

同君は更に、デジタルメディアの流通にも取り組み、ATMを用いたB-ISDN等の高速ネットワークにおける映像配信システムを標準化するDAVICのプレジデント、流通の健全性を確保するための管理・保護技術を推進するコンテンツIDフォーラムの会長として活動され、システム構築に必要な技術の開発と普及啓発に貢献されました。また、誰でも映像を制作できるCGアニメーションの自動生成等、コンテンツの創生に関する研究開発を推進されました。

更にネットワークにおけるセキュリティの分野において、認証やアクセス管理技術の開発に取り組まれるとともに、安心・安全インターネット推進協議会の会長、安心空間コンソーシアムの副会長及び日本スマートフォンセキュリティ協会会長として、同分野における技術開発の推進や提言を行われました。

省庁との連携では、総務省情報通信審議会専門委員、同省住民基本台帳ネットワークシステム調査委員会座長、内閣府高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部員、内閣官房情報セキュリティ政策会議セキュリティ対策会議委員等としての提言や産官学連携プロジェクトの先導により、情報通信技術の発展に貢献されています。

本会では、画像工学研究専門委員会委員長、東京支部長、評議員、副会長、会長を歴任され、近年はCEATECと連携したシンポジウム等による学会の活性化、本会の一般社団法人への移行等に多大な貢献をされました。更に、画像電子学会副会長、同会長、映像情報メディア学会評議員などの要職、IEEEにおけるエディタ、数多くのパネルや基調講演等の活動により、学術の発展に大きく寄与されました。

これらの業績に対し、本会から論文賞、業績賞、フェロー等の各賞、情報処理学会フェロー、テレビジョン学会業績賞、映像情報メディア学会功績賞、高柳記念賞、IEEEフェロー、同Charles Proteus Steinmetz Award、米国テレビ芸術科学アカデミーからエミー賞、セキュリティ分野の貢献で内閣官房長官個人功労賞、総務大臣表彰等を受賞されています。また、東京大学名誉教授の称号、紫綬褒章を授与されています。

以上、本会並びに国内外の関連学会、国際標準化やコンソーシアム、産官学連携における主導的活動を通じて産業と社会に貢献し、電子情報通信技術の発展に寄与された功績は極めて顕著であり、ここに本会の名誉員として推薦致します。